

離島大会の感想

寺田 蓮

僕が今回、離島選抜大会に参加できた。中学校生活最後の年に楽しい思い出がふくまれました。

僕は世界遺産である屋久島の代表として参加しました。しかし参加できるのは選ばれた十八名だけで自分はその枠の中になんとか入ることもできませんでした。

大会におきて練習が始まり、スタメン争いが始まりました。屋久島の野球部はどの学校も人数が少なく、試合にはほとんど出まらなかったが、その各チームのスタメンの人達が集まり、7作ったチームなので僕はスタメンを勝ちとるため必死に練習に取り組みました。その中で僕は他の人よりも声を出すことを心掛けた練習をしました。

練習をしていろいろうちにチームのみんなと仲間良くなり、やはりチーム一丸となり、練習

習をするとはとでも楽しいことだなと思
まいた。
屋久島を出発する二日前に背番号がわら
かました。僕は外野をレテいるので八番を背
中に付けてセシターでプレーした。と思
ながらギンキーレテいると八番のところ
自分が呼ばれた。とてもうかたが、たです
そレテツイに大会当日をおかえした。
僕はセシター。七番で試合に出ました。二
回裏に先制レ次。一回にも一点を加えてサ
勝つるぞ。と思。まいたが四回は二点を返さ
れ。延長までいきました。レカレハ村友と
くやしか。たです。がみんな一生懸命に自分
が力を出せたとみんな笑顔でした。
四日目の野球教室がありました。そレズ
サカリドリムズ。ハの友達を見て。レ
んなにすごい友達が集ま。てるんだな。す
い迫力だな。と思。まいた。
最後に僕はあらたレ。とてモ長い経験が

でギフ幸せだね。と思っました。そしてこの
離島大会にかかわっているマサカリドリム
ズの方々やその他の方々にお礼が言いたくて
す。本当にありがとうございます。

離島甲子園をおえて

三角 健将

昨年の、第三回種子島で行なわれた大会に
続き二年連続出場させてもらうことが出来有
難うございました。前回は、まだ二年生とい
うこともあり、先輩たちに頼りっぱなしで、
気が楽な、楽しかった思い出だけでした。
大会を終え解散式で
、来年は愛媛県です。という話を聞いた時点
で必ず来年もメンバーに選ばれて行くと思
に決めていきした。

選考会を終えメンバーに選ばれたときは、
とてもうれしかったです。
夏休みに入り、うたる暑さの中練習が始ま
りました。ランニング、ダンス、基礎トレ
ーニングをやるのですが、それ以外の学校で
のやりがちがうのびなかみなな息が
合わず、ぎくしやくした感でした。
それでは何回か練習を兼ねるうちに徐々に打
ち解け仲良くなりまわってききました。

そして、僕にはチームキッブレンという大役
を任された。試合前々日は、背番号も
渡すハコを着てもらい、いすじいグシッ
ンヤンで、
た、出発式で町長や父兄やその前の、
挨拶はしても緊張しました。
夕方上場での抽選会がありました。
絶対、種子中だけけ当たらないようにい
とぞわわっていたので不安でした。引いた上場
特産青シモンの番号けしでシートでした。
相手け一回戦に勝った対局ヤマネコホーイ
ブ
でした。
試合当日僕のリボジシヨンはライトで三番で
先制点を二回に一点続いて僕の内野ゴロで追
加点を入れた。僕の中ではこけけいけさとい
う気持ちでした。五回で同点に追いつかれて
ま、七回から促進ルールになりました。
ワイルドビッチなどの失敗。ヒッくなひが
続
き相手になると六回入から敗れてしまいま
した。号令をかけ、一列に並び頭を下げた時
泣きそうでした。かみ死にころんました。

色んな思いが頭をよぎりました。キャプテン
として何かできたのか、打席で僕が支えとけ
ばちが、たかもし小太いとが悔しくしたまり
まさんでした。
その夜のミーティングで村岡先生が
「自分の糸配ミスで負けてしまった」と言わ
れ胸がしめつけられる思いでした。
でも、みんなの心がひとつになり精一杯頑張
ったのだから悔いはありません。
二日目の交渉戦は昨日出ていない人が出場し
たのでベンチで声を出さずに集中しました。
初回から4点入られてしまい、5回でビッ
クカー交替の指示が出、僕の登板でした。
おさえろ、こたがひきました。左の肘関節がきつるに
かりました。
最終日には、村岡兆治さんや元プロ野球
の野球教室があり、とてもいい勉強になりました。
た、こ、小、中、学、野、球、は、終、わ、っ、て、し、ま、い、た、け、だ
この仲間と支え合い励まし合、野球が出来た
事は一生の思い出です。

全国高等学校中学生野球大会

宮田 義也

僕たちは、六月末に選抜の結果発表がありました。合宿して練習を何回かして八月十八日に背番号五をもらえました。

最後の練習は一日中練習でした。次の日の朝は高速船トッピーで鹿児島港に行き、それからバスで中央駅まで行って、それから福山まで新幹線に乗り、そして、バスで宿舎に行きました。宿舎に着いたら道具を置いて、地味会に行つて、組み合わせを決めました。結果は竹一シードになり、対馬と伊豆の勝者と対することにまりました。その日の夜は興奮して朝早く朝オヤパテニが遊ばれて目が覚めて、大会式はとも寝たかったです。伊豆と対馬の試合を見て、バテインが面白い。飛距離がすごかった。私もわが声を出した。どの勝てない相手じゃないかと思ひました。試合前の練習の時にまさかの中偏の要の力斗にホー

ルが目には撃した。でまたんとかボールを取
れると言うのでホッとした。試合が始まっ
て、ツチャ一の立ち上がりは良かった。抑
えられてしまった。次の日は三人で抑えた。そ
の裏四番手からアーボールラシー一塁で僕
に回ってきて送りバントをして成功しま
しました。それからニアウトランナー三塁ワ
イルドピッチで先制点を取りました。次の
日も三人で抑えた。その裏六番のツィーバーズビ
ットを打って送りバントランナー三塁でビ
ットーは健将でエンドランをしかけて成功し
た。二対〇で勝っていたが、しかし最終回エー
フと様々フライで同点になつた。グブグブク
になつて六点取られてその裏一生懸命粘つて
三点取つた。けれど負けました。結果は八対五で
した。次の日交流戦では一回四点取られまし
たが、ピッチャーをあの〇点で抑えました。か
負けました。四日目野球教室で、雨が降ってしま
したので体育館で、亀山さんに走り方を指導

してもらい福本さんにバース間の走塁を指導
してもらいました。その後冬木ジョーニに就
た。僕は台の前ピッチャー人は特別ルームで
外野は後ろ側でした。バットポジション指導
して持ちいしました。夕方にバレーを
して他のチーム人と交流できた。特に僕は
津繩の久米島の人たちと交流しました。それ
と元プロ野球選手のサインをもらったり村田
兆治さんお話しできてうれしかったです。こ
んな素晴らしい経験できたことは僕にとつて
も大きなことでした。こんな機会を作ってく
ださった多くの関係者に感謝して僕のこれか
らの野球人生の糧にして頑張つて、将来人の
役にたてるようになっていきます。

離島甲子園

要乗 大福

僕は第四回離島交流中学生野球大会の屋久島代表に選ばれました。屋久島でセレクシ
ンをしてきめました。三年生は16人、二年生
は5人、合計21人いました。選ばれるの2
人中1人下す。他の3年生は2人な上1人、
1人の7、8し自信がなかつた下す。後日、先生
から「選ばれたや」と言われました。最初
はびっくりして何かいえなが、かけと時間
がたつたつ小喜びが心の底からわいてきまし
た。下も他の3人と悪いなやと言う島民も
ウレアリました。本当にうれしかった下す、
練習の時は先輩より早く準備や行動をした
りすごく大変でしたかすごく楽しかった下す。
8月18日に屋久島を出発して、船や新幹線
、バスなどに乗って愛媛の上島にいきました。
そこで開会式も二つと抽選会もありました。
キヤプラインの三角健将先輩がくいをひきま
した。いつもはくい運が悪いのに今回は何と何

か	と
っ	／
た	番
で	を
す	ひ
。	い
	て
	シ
	ー
	ト
	下
	く
	た
	。
	オ
	ニ
	く
	う
	わ
	し

[illegible][illegible]

日	目	日	は	味	勝	を	見	ま	く	下	か	雨	か	ふ	う	う	さ		
つ	優	勝	は	神	經	と	上	馬	り	二	く	人	下	く	下	。	東	方	
は	候	ふ	か	絶	到	に	優	勝	し	ま	す	。	み	う	う	く	さ	さ	
い	。	そ	の	あ	と	に	体	育	館	下	野	球	部	室	か	あ	り	ま	く

た。自分を知ってゐることも少しづつが、つと
まど、たけと何とかものにしました。このこ
ともわすれぬようになした。い、下す。そのあと
さおな、うーうーがきこえた。盛とレモ
ニ、さーりカレ、を食へました。おいしかつた
下す。佐渡の人達と仲良くなつてかわいかつ
つてもいいました。新上五島、二年生とも来年
とあうと約束をしました。来年は絶対行くた
り下す。来年は、い、島遊び、下、来、み、下、あ、見
輩、直ともいまま下、以上、仲良くなれたし、他
り人とも仲良くなれた、下、お、た、下、す、本
当に、い、け、て、お、か、つ、た。

離島大会に参加して

中央中二年 内田 泰地

僕は、一昨年、去年から離島甲子園という大会、それに向けての練習を見てきた。その練習風景、試合を見ていて「ぎっ」と楽しいだろうな^し。と思った。そして、行われたセレクシ^ョンでは、とにかく元気な所をアピールしよう^とと臨んだ。実際に受けてみたところみんなすご^うくうま^くてび^っくりした。でも、元氣良^くできたのであまり悔いはなかった。とうとう発表の日。すごく緊張した。先生から事務室に呼ばれ、「選^ばれたぞ^し」と言われた。その時はすご^うくうれしくて、飛びはねたかったが事務室がせまく飛びはねることができなかった。屋久島選抜のメンバーが決まり、初めての練習ではあまり他校の人達と話したりすること^がができなかった。でも、だんだん練習を重ねるう^えで少しづつ話^しもれたり、練習も身が入った充実したものを^をおくること^ができた。大会前日の練習の日にはは^っかりチ

ームの一員にもなれ、楽しい練習ができた。
翌日、屋久島選抜は出発式を終え、まず、広
島県因島へ向け出発した。高速船、バス、新
幹線を乗り継ぐ中で野球道具など荷物がいつ
はいだつたか、先輩も手伝つてくれたりいろ
いろしてくれた。僕は本当にうれしくて、た
ま^⑤まんなかつた。やつこのことでついた広島県
因島では民宿によつてから開会セレモニーの
行われる愛媛県上島に海上タワシーで向かっ
た。開会セレモニーが行われた上島町役場で
は、歴代最多の十九チームが参加するだけあ
つて、すぐそんな人がいっぱいいた。その後の
抽選会では三角健将キヤプテンが一番を引い
て大会三試合目に弓削で伊豆大島と対馬の勝
者と戦うことになった。開会セレモニーが終
わり、広島県因島の民宿にもどつて、初めて
迎えた夜は日高光先輩と谷川兼太郎先輩とす
ごした。すごく楽しかった。二日目、弓削に
向かつて出発。弓削につき対戦相手が決まる
第一試合目は対馬が勝ち、対馬と試合をする

ことになった。二試合目が終わり、三試合目の屋久島選抜対村馬が始まった。僕はベンチで試合を見ながら声を出した。ショートの手配を見ているのが半分以上だった。その中で力斗先輩はすごいなと見てて思った。試合は0対0が続き、延長戦の促進までもつれたが結果は八対五で負けてしまった。すごく悔しかった。その夜のミーティングでは、明日の交流戦ではとにかく楽しんで勝とうということとだった。二日目、長崎の新上五島ファイブスターズとの試合だった。僕は八番ショートで出ることができた。試合は一回に点数をいれられ、追う展開となった。しかし、追いつけず負けてしまった。二打数一安打と打てたが、負けてしまったというのは悔しかった。大会四日目が終わり、最後のミーティングでは、つまだ、このチームで野球をしたい。と思った。来年ころはまた、屋久島選抜に選ばれて、健将先輩をこえるキャプテンとして、もどいてきたい。この大会を経験できたこと

を感謝したいと思います。本当にありがとうございました。

全国離島中学生野球大会

中央中学校

三年

谷川

兼太郎

八月十九^日から二十一^日の間に全国離島中学生
野球大会いわゆる離島甲子園がありました。

場所は愛媛県にある上島でありました。十

八日に六時二十分集合して出発式があつてこ

の後にトッピー、バス、新幹線、バスと八時

間かけて宿について、ちよ。と休憩したあと

船で移動して弓削体育館で抽選会がありました

た。屋久島選抜は第一シードで対島対伊豆大

島の勝者と対決することになりました。

待ち時間に久米島イーグルスの人たちと仲

良くなつて良かったです。

この日は抽選会が終わった後、宿舎に帰っ

て風呂に入つてご飯を食べてミーティングを

して寝ました。

離島甲子園

初日は開会式をした後、移動して

屋久島選抜は三試合目で僕はスラッパではな

かったけど、いつでもリリーフピッチャーとし

てチャンスでの代打に準備しておけると村岡先

生に言われたので守りのときはキャッチボール攻めのときはすぶりをかかせませんでした。試合が始まってベンチもスタメンも声が出ていて二点先制点を取りました。その後は洗も打たせて取ったりピッチになっても崩れることがなく連続三振で切り抜けたリして好投を続けていました。四回走者を出してしまいそこからレフトがボールを後ろにそらしてしまい塁上のランナーとバッターランナーがホームに帰ってしまい同点に追いつかれました。でも洗はそこで崩れず後続を切ってその回をおさえました。それから六回まで無失点で時間制だ、ただ十分が終あり七回は無死走者満塁からになりました。七回表にそれまでは好投を続けていた洗だ、たけどアウトロールが甘くなつて浮いた球を打たれて四点取られてしまいました。でもその裏僕は代打に送られて外野には運んだけど取られてしまいました。一点しか返せず試合に負けてしまいました。でも僕は最高の思い出が出来たと思い選手のみの

んなと握手をしました。

交流戦の一回戦は四番、投手で出してもらいました。でも一回にヒットは打たれてないけど上がってコントロールが定まらず四点もとられてしまいました。打つ方も三打数一安打で四番なのに打点をあげることができまさんでした。結果は四対二で負けたけどみんなと力を合わせて戦スパープレーがいっぱい出て楽しかったです。

そしてみんなと過ごした四泊五日の宿です。二した時間、新幹線に乗った時間、船に乗った時間、バスに乗った時間、そして、野球をしてる時間最高に楽しかったです。

最後にこの様な機会をあたえて下さった関係者の方々にお礼をいいたいです、本当にありがとうございました。

全国離島中学生交流大会

中三年 眞邊 祐人

「さあ、こーい」。

勇ましい球児たちの声が球場内に響きまし

た。ここは愛媛県・上島町。今年の離島甲子

園は愛媛県の離島でおこなわれました。

屋久島とは違う空気の中、ベニキから必死

で声をかけました。

ぼくは、背番号9。一桁の数字をもらいな

からもしギョラーになれず悔しい思いをいま

した。ベニキから盛り上げていこうと心を

きりかえました。

対戦相手は、対馬のヤマネコボーイズ。去

年の三位チームでした。

屋久島はそのチームから三回にラニター三

塁に進めました。ピッチャーが投げた数球目

ボールが後ろに軽がりました。その瞬間に、

ベニキから

「ゴーゴー 行け行け」

と、大声で指示を出しました。ラニターは

ホームイン。この回、またもラニシーを三塁に進め、エンドラン成功。屋久島は2対0と失制しました。

「いける、勝てる。」

と、ぼくは勝利を確信しました。しかし、五回にエラーなどが重なり、2対2の同点。

そして、決着がつかず向かえた6回の裏、

ぼくは先生に呼ばれました。

「祐人、いくぞ。」

と、先生に守備につくように言われ、

「よし、一点もやらない。」

ぼくは、大きく深呼吸してベンチから飛び

出しました。この回から促進ルール。ぼくは

自分に「バックホーム、バックホーム」と、

口に言い聞かせました。エラーやヒットが重

なりも点をあたえてしまいました。

今度は、屋久島の攻撃。ぼくは、セカンド

ラニシーでした。バッターがヒットを打った

らホームに突っ込むことをイメージしてまし

た。結果四球。一点を返し、ぼくは三塁。バ

ッターが打った初球。レフトにフライがとが
りました。頭で考える間もなく、体がすでに
タッチアップの構えをしていました。フライ
は浅い。でも一点がほしいと考えた。ぼくは
ボールがグローブに入ったと同時に、おもい
きりサードベースを蹴りました。ホームイニ
ンク点追加。さらに次のバッターで、もう一
点追加。8対5。ぼくたちの実力は全国に届
きませんでした。

しかし、はるの仲間とここまで試合ができ
て良かったです。初めて、こんなに野球が楽
しいと感じました。

最高の試合をさせてくれた、たけな、屋久島町の
みなさんに感謝です。

ぼくは、屋久島の野球部に入るつもりなの
で、今度こそ本当の甲子園に行けるように、
努力したいと思います。

全国離島甲子園

一 奏 中 三 年 松 田 翔 太 郎

今年の夏、僕は「離島中学生交流野球大会」に屋久島選抜チームとして出場しました。

この大会は、元プロ野球選手の村田兆治さんが全国の離島球児にも夢と希望をというのとど二〇〇八年に始まった大会です。

昨年の屋久島選抜チームは優勝チームに惜しくも延長十回の末に負けてしまっていたので、今年のチームの目標は優勝でした。

いよいよ本番、会場は愛媛県の上島で組み合わせ抽選の結果、一回戦は長崎県の対馬ヤマネゴボーズとでした。

僕は最初、ベンチスタートでした。レギュラーメンバーではなくとても悔しかっただけで、声をしっかり出してみんなをサポーしようと思いました。

試合は進み捉進ルールになり、勝敗のわからない試合になりました。みんな自分ができる最高のプレーをしていったもののあと一歩お

よばず屋久島選抜チームは一回戦敗退という結果に終わりました。

負けて悔しかったけれど、最も悔しかったのは試合にぞれずにみんなをサボってごきなかっただという事です。しかし明日、僕はスタメン出場することになりました。自分にできることを精一杯して少しでもチームの役に立とうと思ひました。

そして当日、屋久島選抜チームは長崎県の新上五島ファイブスターズと試合をする事になりました。この交流戦でも交流戦優勝というのがあるのぞ、チームの目標は変えずに試合に望みました。

僕は七番シフトでどる事になりました。あまりしたことのない外野で少し緊張しました。たがライナー性のボールを好補して得点を防ぐことができました。バッターでは初球からいこうと思ひあせってしまつたせいか、ボール気味のボールを打つてしまひファーストゴロでした。

そして、二打席目、ツーアウトで打順がま
わってきた。次は自分の好きな球を打と
うと思ひ構えました。ツーストライク、ノー
ボール不利なカウントに追いつまぬまい
ました。ストライクゾーンを広くして構えま
した。ピッチャーが投げたボールは速かつた
が、ど真中にきました。思ひ切り打ち返すと
打球はセンターの前に転がっていき、センタ
ー前ヒットを打つことができました。思わず
がツツポーズが出ました。

その試合は負けましたが、みんな本当に楽
しんで試合をしていました。

そして大会を終えて、屋久島に戻り解散式
をしました。みんな野球ができて、この夏
は本当に一生思い出に残るいい経験がござま
した。

離島甲子園

一湊中学校三年 原田 成貴

僕は、八月十八日から二十一日までの第四回離島甲子園に参加した。一湊中としては、六月の地区総体で野球を終わっていた。前年も参加の紙を提出したが、選考会の際に風邪をひいてしまっただけで、行けなかった。今年も提出した。今まで大した活躍もしていない僕がこの屋久島の十八人の中に入るか、すごく不安だった。同じキャッチャーは他に二人もいた。本当に落ちてしまうと思った。校長室で報告を受けたときは嬉しかった。説明会の際の自己紹介では、今まで話したことがない人ばかりだったのでとても緊張した。その後、何回か練習があった。離島の練習は楽しかった。時間は長かったが、短く感じた。ボランティア活動には参加したかったが、高校の体験入学と重なっていたので参加できなかった。お盆明けの最初の練習の終わりで、背番号を配られた。少しいくつかを期待してい

たが、十四番だった。夕しほりの控えナンバーだった。やっぱり屋久島で見るとこうなってしまう。特にあでたところの無い僕だから。僕は一応武文と二人で道具係になった。出発の日、朝早くに安房なので朝ものすごく早く起きた。前の夜もぐっすりと寝れた。何時間もの長い移動は疲れがたまった。

二日目、大会本番、九回特別延長で八対二負けていた。裏の攻撃、ニアウトー、二塁で代打背番号十四、何でもいから塁に出たかった。そしてフルカウント、ファールで終わった。次の球、高く大きく外れたボールを僕は冷静に見逃した。そして代走でベンチに戻り試合を見守った。自分の役割は果たせた。残念ながら負けてしまった。ダウンの後控えメンバーは、明日のポジションを伝えられた。ライトだった。キャッチャーでの出場は決まっていたが、やっぱり悔しかった。

三日目、スタメン試合、三番なので一回で打順が回ってきた。まず二ストライクいつも

のことそこら何球を見た。ベニチからは桜井広大のセッティングマシーナが聞こえる。カウントは覚えていない。振った、当たった。つまりながらショート横をぬけていた。次の打席は凡退。

この大きな大会で経験できてよかった。高校でも野球を頑張って、本当の甲子園を目指したい。

離島大会を終えて

安房 三年 藤山 伸太郎

僕にと、この大会は二回目の出場でした。
去年、僕が選ばれたときは種子島でした。
ホームグラウンドだったのでとてもプレイしやすか
つたです。去年の先輩達は、たつた十二回ほどの練習で、ものすごいチームワークを作り上げていました。ゲーム中の声かけ、みんなが本当に一つになつていました。

あれから一年が過ぎ僕たちが屋久島選抜をひたばる時がやってきました。六月のセレクションから始まりましたが、僕はサイドとしてセレクションに申し込みました。僕は足に自信があります。走塁のタイム側定では上位のタイムを出すことが出来ました。守備でもまあまああのプレイができ良かったです。あま二十三人の中から十八人が選ばれます。あまリプレッシャーがなかったのびのびとしてプレイが出来たと思います。去年はもと申し込んだ人が多かったのび、とても不安

でした。そんな中、選ばれたときのうれしさは今でも忘れません。今年、選ばれたと報告を受けたとき、去年とは、だいぶうれい、でした。が今年には責任感も感じました。僕は野球部のキャプテンをしていました。そのときの責任感とは少し違いました。

八月の選抜チームの一回目の練習では少し緊張したのを覚えています。それから何回も練習が繰り返されていきました。最初は話すことも出来なかったメンバーとも話せるようになったり、一緒にキャッチボールをしてくれるメンバーも増えました。そのとき僕はチームが一つになってきてるなと感じました。

八月十八日、出発式を終え、船に乗り、バス、新幹線、またバスと長い時間をかけて、開会せしモニの会場に行きました。今年も町長さんや村田兆治さんの話がありました。今年も今年は去年よりも近い所で村田さんの「人生先発完投」が開けたので良かったです。

一日目のせしモニが終り、二日目の試合

に望みました。二番セカンドで試合に出場し
ました。初回はよく、あとの流れも良かった
と思います。でも、一回に点を取られまし
た。また自分達が点を取り返し同点になり、
マイブレイクの末点を取られ負けました。僕
達は後攻で取られ、後の回でしたが、最後の
打席で自分が打てなくて負けました。あの時
打ててれば勝っていいかもしれません。打て
なか、た事は本当に悔しいです。でも負けた
ことで得る物も沢山あります。交流戦でも勝
つことは出来ませんでした。とても良い経
験になりました。

全国にはこんな中学生もいたんだ、とか、
こんな離島もあるんだ、とにかく色々
勉強をすることが出来ました。この大会を
開いてくださる方に、大会を支えてくださ
るスタッフ、お父さんお母さん、全ての方
々へ感謝したいと思います。本当にありがと
うございました。来年はぜひ試合に勝ち続け
て優勝してほしいです。

離島大会

安房中 三年 橋口 武文

六月の総体が終わって二ヵ月がたち、他の部の人達はもう部活を引退してしまっただのにぼくたちはまだ野球の練習をしていました。なぜなら、「全国離島大会」があるからです。少ない練習の中から、レギュラーの座をかけてあらそうので、とても大変でした。ぼくはレギュラーではなくなったので、チームのためになることをたくさんしていこうと決意しました。

ぼくは、「全国離島大会」に行く前に三つの目標を決めました。一つ目の目標は、最後の大会なので「楽しむこと」です。なぜ楽しむかというと、めったに全国の人達の見ることができないからです。二つ目の目標は、「チームのために力になることをするです。ぼくは、野球があまりうまくないので、ぼくにできることを見つけて、チームのために力になるしかないと思っただからです。最後の三つ

目の目標は、どこの県の人でも積極的に話しかけるです。ぼくは、知らない人に自分から話しかけるというのが苦手なのです。チームの仲間に、話しかけるようにしました。

話しかけて見ると意外とみんなと長く話すことができました。チームの仲間とは仲よくできたのではないのかと思います。ですが、他の離島の人達と仲よくならないとこの目標の意味がありませんので、いきなり声をかけずに五間ずつと観察をして特徴をつかみ、最後のお別れパーティーで声をかけました。一番声をかけたと思うのは沖縄県の久米島イーグルースの人達です。試合前の円陣の時の指笛がすごく特徴的だったので、指笛を話しのネタにして話しかけてみました。するとみんなが指笛のやり方を教えてくれました。二番目に声をかけたのはとなりの種子島の中種子中の人達です。中種子の人とは一つ共通点がありました。ぼくの兄とその人のお兄さんが同じ高校に入っていたことです。学年はちが

っ だんですが、同じ兄を持つ者同志で話が盛
り上がり仲よくなれた気がします。

この目標がしつかり達成できたかは分かり
ませんが、自分なりに努力したので充実感
があります。

生で村田兆治さんを見た時は、やさしそ
うなオーラが出ていて、村田さんが投球する時
にはまた別なオーラがでていて、バッターを
スパスパ切っっていくんだろうなと思いま
した。

野球教室の時は、あいにくの雨で体育館だ
ったんですが、内容はすごく基本で、基本を
マスターすることによって、守備やバッ
ティングが上手になるんだなと思いました。内野
手の教室の時は、バランスが一番大切になっ
てくるんだろうなと思いました。一流の選手に
なるために、この教えを忘れずに、今後生か
していきたいと思います。

この大会に行くために保護者や先生方の助
けがありました。感謝の気持ちを忘れずにし
ていきたいです。そしてこの思い出を一生の

宝として、残りの中学校生活を楽しく思い
強に集中したり、がんばっていきたいと思
いました。

僕は野球を続けます。

全国^{鹿児島}甲子園

安房中 三年 泊 力斗

八月十八日、僕達屋久島選抜は、広島の福山まで行、た、最初は遠いなあと思、たげど屋久島に帰、てきたら、多くの人に支えられていたんだと感じた、

抽選会で多くの人がこの^{鹿児島}甲子園を注目していた、沖縄から北海道まで全部で十九チームの^{鹿児島}島の中学生が参加した。こ人も県外の人達と試合がでさると思、うとワクワクしてきた、えして大会の主催者、村田兆治さんのあいさつが来た、少しはなれた所だ、たけとでげーと思、た、元プロ野球選手の方が、^{鹿児島}島の中学生のために、こ人もにも素晴らしい大会を開いてくれるというのは、本当に野球が好きなんだと思、た、

開会式、多くの人が集まり、^{鹿児島}甲子園が開幕した、本当の甲子園の様だ緊張感、ワクワクが今までにないほどしてきた、

今大会の開催地、土島町は四つの島がらな

つており、自然に豊かな自分になった。何か屋久島
と似ているな、^オーと思、た。
次の日、僕は長崎の対馬と対戦した。緊
白した試合で、僕はすごく楽しんで感じた。そ
の後試合は進み、失制した。二点をリードし
たが、次の回僕のエラーでランナーを出して
しまっただ。こゝをさっかけに、同点に迫いつ
かなくてしまっただ。本当にもうしわけない、と、
今も悔やんでいる。この時、野球の楽しさを
思い知った。一人のミスから同点にさまたけ
う。まだまだ技術的にも未熟だと感じた。え
りまま試合は進んで延長に入った。ノーマウ
ト満塁から試合が再開した。ここから屋久島
選抜は、ミスが重なって失点を許してしまっ
た。でも皆あきらめてはいなかった。しかし
相手にはおまじななかった。結果は、八対五で
負けってしまった。僕はすごく悔しか、た。カ
の差は無いのに一気に差を許してしま、た。
力の差が無い分采計に悔しか、た。でもこの
ことがも、と自分を強くして人になる。

しかしまた試合ができないわけじゃない。
次は交流戦がある。こゝは新上五島町との戦い。
この試合は、試合に出場できなかった人達を中にスタメンを組んだ、初回、またしてもフアールをいれて、四点を許してしまふ。
た、打たないでいるわけじゃないので、無失点は
点をやつてしまった。でもここから五人が勝利するためには、必死にやっていた。僕はバ
ンチから見ていた。野手がどんな動きをしてい
るかがすぐに見えた。でもベンチにいると試合に出たいという気持ちの強さを感じた。
た、この時試合に出場できる喜びを感じた。
結果は四対一で負けてしまった。しかし、これまでにない貴重な経験をさせてもらった。昇
外の同級生の野球を肌で感じた。
この離島甲子園というのは、離島の中学生しか
が体験できない大会だと思う。ここから成長
と長く続けてほしい。

今度は本当の甲子園で戦いたい。

離島大会を終えて

永田 寛人

今年の全国離島交流中学生野球大会は、愛媛県の上島で開催されました。僕は、屋久島のチームに選ばれることができ、この大会に参加することができました。屋久島選抜チームは、城南中学校、中央中学校、一湊中学校の三校から選ばれた人で出来たチームです。なので最初のうちは全体の息も合わず、あいつの声やかけ声もばらばらで、このチームで本当に大丈夫かなと思いました。しかし、練習をしていくうちに少しずつチームワークができてきて、かけ声もそろってきました。チーム全員の名前も覚えることができました。僕は、レギュラーを目指してがんばっていました。しかし、背番号はいち番をもらいました。レギュラーになれなかったのはとても悔しかったです。しかし、その時から、レギュラーでなくともチームの一員なのでこの仕事をまかされてもがんばろうと思いました。

あッという間に時間は過ぎ大会当日をむかえ
ました。全国の難鳥のチームを見ていてここ
のチームもあまり強さは変わらなないと思い
ました。試合の組み合わせはシードをとるこ
とができ一回戦の勝者との対決でした。僕は
試合でランナーチャーという仕事をま
かされました。バッターやランナーに声かけ
をしたり、相手ピッチャーの特徴を見つけよ
うと努力しました。試合は先に2点の先制点
をとりました。ピットや守備の乱れで2点
おいつかれてしまいました。延長になり特別
ルールでノーアウト満塁からはじめました。
結果、5対8で負けてしまいました。が、すこ
く張威のある試合でとても楽しく、満塁で
きる試合でした。この一試合ですごくチーム
の一体感ができてランナーチャーでも
いっしょに戦っている体験が初めてでした。
次の日の交流試合では、僕も試合にでるこ
とができました。はじめは張でもいつも
よりでなくて体が固まってゐることに気づき

ました。するとベンチからいつもの様に、
「動き止まってるぞ、声出していげい」
などの声が聞くえ、いつものように動けるよう
になりました。ベンチからの声でこんなにも
変わる事が初めての体験でした。

決勝戦は、雨天コートであまり見れなく
て残念でしたが、元プロの方々に教えてもら
う野球教室では、とてもためになることばか
りですごくいい体験ができて、良かったです。

最後のパーティーでは他の離島の人達と、
友達になることができて、他県の方言の話など
で盛り上がりとても楽しかったです。

この大会はたくさんの方々色々な支えや
応援があったから実現した人だと思っています。
なので、この大会の関係者の方々にとっても感
謝しています。この体験は一生忘れないと思
います。これがらのことに役立つと思います。
本当にこの大会に参加することができて良かった
です。

離島大会に行つて

倉野 未来也

八月十八日から二十二日まで第四回目の全

国離島大会に行きました。

一日目は、屋久島から愛媛県まで十二時間

をかけて行きました。ぼくは行くだけでモフ

かふました。だけど新幹線に乗ることかでキ

たのびよかった。

二日目は、この大会の初戦でした。初戦の

相手は長崎の対島との試合でした。ぼくは、

こゝまでの試合の中で、うばんと合いが入っ

ていた試合でした。ぼくは、スタメンでキャ

ップヤーでした。すぐかんぱつたけど、この

試合はおしくも負けしてしまいました。去年と

同じでタイブレークで負けしてしまったのは、

ごくかんぱんでした。ぼくの中で、すぐ乗

しくいい思い出でできた試合でした。

三日目は、公流戦がありました。対戦相手

は新上五島町でした。この試合はベストタ

ートでした。この試合もすぐいい試合でした。

た。この試合で最後だったけどすごく楽しい
試合かびきた。

四月目は、野球教室とお別れパーティーがあ
りました。野球教室では村田兆治を中心にいろ
んな人にたくさんのお話を聞いてもらいま
した。最初は走塁の話を聞いてもらうこと
はキャッチボールのやりかたを教えるという
でした。バツテイングのことも教えるという
でした。それから内野、外野、バツテリ
にわかれて細かいところを教えるというま
じな。教えるというところをいままじあたり
まじのようになつていったことが、サッ
てはいけないうことだった。そしてすごい飛見が
ありました。その後はお別れパーティーがあ
りました。ほかのチームの人たちとたくさん話
したり遊んだりして楽しかった。たくさんお
人たちと話していろいろうちに友達になつてま
った。このことは忘れられない思い出の一
つだ。あと感じました。

ほくは、この大会に行けよよかったです。

[illegible]

新島大会

羽元 龍

夏休みには、僕たち三年生にと、こぼ、最後の大会になる新島選抜大会がありました。

ぼくは、この選抜メンバーに選ばれたと思

てなりましたので、びっくりしました。ほか

のメンバーは、みんな上手そうで、ついてい

けるかなと思いました。

八月十八日、出発日から、すごくきもちよ

うしました。その日は、一日かけて移動日だ

ったので、すごく疲れました。

八月十九日、本戦が始まりました。結果は、

負けでした。たんですが、今までの試合の中

で、一番楽しくて、一番笑いました。ぼくは、

バット引きで試合には、出てはいけど、レギ

スメンバーの人たちは、試合がすごくか

たです。すごく楽しくできて、よかったです。

八月二十日、この日は、交流試合がありました。

した。ぼくは、レギュラーにた、たので、あ

ごくきもちよくしました。結果は、負けして

まいました。ぼくは、いい結果が残せなか
たので、そわが一番悔しかつたです。
八月二十一日、この日は、決勝でした。決
勝は、久米島選抜チームと上島選抜チームで
した。ぼくは、久米島選抜チームを応援しま
した。でも、その日は大雨で、すごくかりに
くそうでした。結果は、大雨で引き分けにな
って、２チームとも優勝でした。たぶん、ち
ゃんと優勝したか、たと思います。
決勝が終わったから、まさかりドリムス
の野球教室がありました。ぼくは、内野手の
かまエ方や取り方などを教わりました。
野球教室が終わったから、パーティーをし
た。すごく腹が減って、いたので、料理がすご
くおいしか、たです。特に、レモンポークカ
レーがおいしか、たです。レモンードもおい
しか、たです。ぼくは、まさかりドリムス
の人たちには、サインをもらいに行こうと思
て、いたので、おが、時間がなくて、もうえま
で、トでした。でも、楽しか、たです。

八月二十一日、この日は一日かけて、屋久島に帰りました。

ぼくは、この離島選抜メンバーに選ばれて、いろいろ考えました。自分が足を引、張るだけとか、うまくいっていかないと著手した。でも、最終的にはみんな仲良くなつて、すごく楽しかったです。

離島大会で学んだこと

日高 亮

、ぼくが離島大会に行つて学んだことは、い
つかあソます。

一ツ目は、チームワークです。ぼくたち屋
久島選抜は、色々なチームからの寄せ集めのチ
ームでした。今までは敵として戦つてきた人
達と、チームを作るというのは、何か、不思
議な感覚でした。しかし、その分大きな楽し
しみもあソました。実際に、試合では、みんな
一丸とほつて戦つていたと思うし、一生懸命
やれたと思います。ぼくは、こんなチームで
戦えて、本当に楽しかったし、嬉しかったで
す。

二ツ目は、全国のレベルです。ぼくは、最
初対戦するチームの試合を見たときに、自分
のビッチェンリが通用するか、不安に思つてい
ました。そんな中、試合が始まソ、もう、心
いそソ投げるしかないか、と思いました。そ
うすると、思つたよソバツターを打ち取るこ

とができました。自分のピッチングが通用するんだ、と実感し、本当に嬉しかったです。試合には負けてしまっただけで、ぼくの中ではとても楽しく、充実した試合だったと思います。す。全国のレベルを、体感することができて良かったです。

三つ目は、たくさん友達ができたことです。さよならパーティーでは、たくさんの方がぼくに話しかけてきてくれて、すぐに仲良くなれました。こういうことも、この大会の目的なのかな、と思いました。さよならパーティーは、本当に楽しかったし、一生の思い出に残るものになりました。そして、全国の離島球児たちと、ぼくたちは、みんなつながっているんだ、と感じました。

ぼくが、離島大会に行けて良かった。学んで良かったことはこの3つです。どれも、この大会でしか味わえないことだと思います。ぼくは、これから先も、この大会のことは、絶対に忘れないと思います。学んだことも生

[illegible]

離島甲子園に行つて

糸南中学校 三年 柳橋 啓太郎

八月十八日、ぼくは屋久島選抜の選手として離島甲子園に行つた。ぼくはこの日をずっと楽しみにしていた。ぼくたち屋久島選抜は三年生十六人、二年生二人の計十八人でできたチームだった。最初の練習はみんなバタバタで、同じ中学校の人としか交じあえてなく少しとまどいたがらの練習だった。しかし練習を重ねるたびに、じいじにチームワークも深まっていた。技術も上がっていた。最高のチームができてきた。ぼくは、このチームなら楽しくできると、上位を目指すのも夢じゃない、と思っていた。そしておかえた八月十八日、町長さんを始め、たくさんの方々がぼくたちを温かくわくわくしてくれた。本当に感謝しています。そして鹿児島から新幹線で広島まで行き、バスと船で開催地の上島まで行った。その日は試合の抽選会があった。屋久島は、Aドロツクの第一シートだった。

そしておかえた第一試合は長崎の対島との
 対戦だった。そして試合が始まった。初回は
 四人でおさええるいいピッチングだった。そし
 て屋久島は相手のパスボールとヒットエンド
 ランで二点先制した。しかし、大回においつ
 かれ、タイムブレークになった。すると、バッ
 テリーエラーや、ヒットを打たれても点を相
 手にとられた。しかしぼくたちもくいついた。
 そして対島の二死満塁、一打できればサヨブ
 ラのチャンスまでいつたがおいつけられず、
 対島という結果で一回戦で屋久島選抜はは
 いたいに終わった。悔いは残ったが、試合が
 終わった後のみんなの表情は明るく、楽
 しかった。いままで野球をした中で一番楽し
 かった、などといっていた。ぼくもこの試合
 が今までで一番楽しくでき、一番気合の入っ
 た試合だった。このような経験をさせてくれ
 たたくさんの方々、本当にありがとうござい
 ました。本当に感謝しています。そして、元
 プロ野球選手の野球教室や、ぼくの生きてき

中で一番楽しかった。さよならパーティー
 なども参加できて本当に良かったです。特に
 さよならパーティーのときの伊豆大島と北海
 道の奥尻町の人たちとの交流は最高に楽しか
 ったです。ぼくはこの離島甲子園で礼儀や、
 団体行動の重要性、全国各地の人とのふれ合
 いなど、多くの事を学ばせていただきました。
 この離島甲子園に屋久島選抜を出場させ
 ていただきました。多くの方々をはじめ、保護
 者の方々、矢野さん、村岡先生、池之上先生、
 岩川さん、本当に感謝しています。ありがと
 うございました。また来年も後輩たちのため
 にも、屋久島のためにも離島甲子園に出場で
 きることを心から願っています。本当にあり
 がとうございました。そして、健将、洗、
 未来也、伸之助、義也、力斗、卓海、蓮、祐
 人、成貴、武文、寛人、翔太郎、兼太郎、龍
 大祐、泰地に楽しく野球ができたのも、みん
 なのおかげ。短い間だったけれど、本当にあ
 りがとう。

離島大会で学んだ事

日高 卓海

僕は、今回初めて離島大会に出場させてもらった。多くの事を学ぶ事ができました。全国離島大会というだけあり、とても良いチームばかりで、そのような良いチームと対戦する事で精進にも成長する事ができました。屋久島選抜のチームの最初の対戦相手には、二点を先取してリードしていたのですが、エラーとタツチアップで二点取られてしまい、

延長戦で負けてしまいました。

僕は、大事な試合でエラーをしてしまった上に、四番という最高の打順でありながら、四番の仕事もこなせずに、チームに貢献する事ができませんでした。次の交流戦でも負けてしまい、試合にも出場する事ができませんでした。

中学校の野球最後の大会、試合は、中学校の野球の大会、試合の中で一番悔しい思いをしました。ですが今回の大会のようないい

思いを、二度としないように、高校野球では、
今まで以上の努力と情熱を野球に注いでかん
ばりたいと思いました。

離島大会には、屋久島の各チームの選抜で
出場したので、知らない人と長い間生活する
という事で、とても不安でした。四泊五日の
間、選抜チームと過ごしていて、一度も過ご
しやういと感じた事は、無かったため、まず
は、そのような自分を改めていきたいです。
これから高校になると、知らない人と野球を

する事になると思うので、自分の弱い所は、
一つ一つ直していきたいと思います。

今回の大会では、他のチームや選手の良い
所も学べて、自分の弱さを再認識する事か
できたので良かったです。

今回の貴重な体験と悔しさを忘れずに昇進
していきたいです。